



森ボラ 通信

第113号 2011年10月20日発行
NPO法人北海道森林ボランティア協会
URL <http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>
札幌市豊平区平岸1条1丁目9-6ラルズビル3F
Tel.(fax.): (011) 816 - 7010
E-mail : hshinrin2002@nifty.com

■ トピックス

◆ 札幌工科専門学校での間伐、下刈り実習

当別フクロウの森・2日間実施(9月5日(4名)・9月13日(3名))

毎年当協会は札幌工科専門学校の森林学習に協力、技術支援を行っています。今年はフクロウの森で1~2年生27名がチェーンソー、チルホール及び草刈機のメカニックと使用方法(安全管理を含む)および除間伐・下草刈などの保育作業を実習指導しました。

森林所有者・石島さんのお話の後2班に分けて実習を行いました。就職試験を控えてみな真剣でした。来年の下草刈り実習は支笏湖国有林で行うべく学校と打ち合わせています。(記・酒井)



◆ 森林ボランティア ステップアップ事業「森林教室」に参加して

石狩振興局が主催する平成23年度の標記事業もいよいよ最終段階を迎え、10月4日に実際の「森林教室」を体験する機会を得ました。対象児童は石狩緑苑台小学5年生60名、場所は当別町「道民の森 神威地区」で、ボランティア団体側の参加者は6団体18名が参加しました。午前中は植樹の児童が10名にボランティアが3名、それに振興局1名が1班を構成し、ミズナラ30本をボランティアの指導の下に一緒に植えました。植樹は我々の従来の活動で体験していたので指導もよく、子供たちも意欲的に植樹し、来年以降の成長が楽しみな時間でした。午後から駐車場周辺の芝生広場で「クリップ探しゲーム」、散策路を歩きながらの「森のビンゴゲーム」を体験しました。子供たちに森の不思議さ、五感の重要性を意識してもらったゲームで、今後の我々の森林活動にも活かしていける内容でした。最後に事前の現地調査を含め準備をしていただいた石狩振興局の皆様へ感謝いたします。(記・樞棒)



■ 現場より

◆ 第6回道新「ぶんぶんの森」秋季植樹祭

10月8日(土) 好天に恵まれた中、今回も賑やかな植樹祭となりました。高さ30cmほどの850本のトドマツの苗木が用意。8班のグループに別れ願いを込めて丁寧に植えられ、参加者の額には汗がにじみ心地よい環境貢献が出来たのではと思いました。

初めての体験者や4歳の娘さんとの親子を含めて76人の参加者は鍬での穴の掘り方、植え方を教えられた通りに作業を進めておりましたが、我が協会員の指導にも熱が入っていたようです。中には2度目の参加者も見



られ鋸の使い方や植える手順も慣れた様子で前回植栽した苗の活着状況を熱心に尋ねる光景も見られました。この植樹祭も3年継続、6回目を迎え市民参加として定着してきている印象を受けました。森林ボランティア協会員は植栽列の下草刈りや、枯損木のメンテナンスも大切な作業となりますが、復興の森となる様お手伝いして行きます。今までご指導戴きました北海道新聞社矢萩部長様に御礼申し上げます。
(記・事務局)

◆ 植樹記念碑完成 (参加者 16 名)

10月7日(金)参加者より強く希望のあった植樹記念碑をCGCの森のNo.3地区の一角に設置しました。通称オッパイ山の麓のNo.3・4地区は手作業による植栽地で、他の重機による地拵地区よりは参加者の思い入れが強く、当初より記念碑を建てようとの話も出ていましたが、幹事内で賛否両論纏まりきれずにいました。今年になってCGCで記念碑を建てるとのことで、計画が再発し西野さんと私が主体となり作製することになりました。表題・碑文は佐野さんが担当し「森と人の絆」と決まり、表題の字体は高野さんに書いていただいた。そのほか、製材、防腐剤塗布、ニス塗布、彫込み、墨入れ、設置などに多くの会員の手を借りて出来上がったものです。

板は、北海道神宮より譲り受けた2004年の台風18号(CGCの森と同じ台風)で倒れたハルニレ



製材作業



彫込み



設置作業



表題「森と人の絆」

の巨木を、2005年10月28日約8×55×280cmに製材し、澄川で5年半自然乾燥させたものを使用しました。

表は「森と人の絆」の表題と「2004年の台風18号風倒地に、風に強い森の育成をめざして、森を愛する仲間が集い汗を流した。『森と人の絆』の証としてこの地が再び豊かな森とならんことを。」との簡潔な説明と、手作業による地拵地に清い汗を流した42名の参加者の名前を彫込み更に墨を入れました。

裏は「2004年9月8日の台風18号による風倒で壊滅的被害を受けた国有地5456林班の一角に、手作業による地拵、トドマツ補植、下草刈などの働きかけを通して、天然林の再生を促した。重機導入による地拵地区に勝る森が生育することを願い、ここに参加者名を記す。」と記念碑の由来を記した立派なものです。記念碑は森の奥にあるため、一般の人の目に触れることはありませんが、42名の参加者一人ひとりの心に貴重な記録として刻まれていることでしょう。(記・和田)



記念写真

◆活動報告: LAWSON 社員澄川環境林野外体験(9月21日(水))

この7月に澄川環境林が「森林セラフィー・森林体験の森」づくりとしてローソン支援事業の助成を受けました。9月21日にローソンの皆さん9名がこの森を訪問。また札幌市の担当部署からも4名の方が来られ賑やかな1日となりました。

ローソン札幌石山白石店オーナーの岩本さんのご挨拶に始まり酒井代表の協会紹介と当日の作業手順、KYT(危険予知訓練)の確認、ラジオ体操と何時もの手順にそって作業開始。

初訪問の記念として入口広場に棟方会員の指導の下、ミズナラ(30本)、ハルニレ(11本)、ヤチダモ(10本)、合計51本を植樹。そのあと林内観察、高野会員がこの森の歴史、活動内容を解説。今回の助成で実施しているプロジェクトの紹介では、①古くなった木道の付け替え作業。②四阿の設置等に付いても説明しながらの散策でした。

昼食は我が協会の湯澤シェフのキノコ沢山の団子汁に舌鼓。ローソンの方も十分に満足されたことでしょう。午後からは、来年春の植栽予定地(約0.35ha)の笹刈り作業でしたが、我々でも大変な作業を熱心に行ってもらい次の日の仕事に影響したのではと・・・、来年春には350本の広葉樹を植栽予定しています。また今回の事業を記念して来春にはポプラの杓材(400×1,600×



50/mm)で看板を作成しますので期待してください。350本植栽と看板の除幕式を兼ねて森林セラピーの癒しを体験していただくよう大勢の方の参加を会員一同お待ちしております。(記・事務局)

■ ひとこま

◆ 万葉集の草木 (4) 「萩」

万葉集(巻第十 2173)に次のような歌があります。

「白露を取らば消ぬべしいざ子ども露に競ひて萩の遊びせむ」

「秋雑歌」の「露を詠む」と書かれた歌の中の一首です。「いざ子ども」は脚注によれば「宴席で目下の者に親しく呼びかける慣用句」とのことですので、口語訳すれば「白露を手を取ったなら必ず消えてしまうだろう。さあ皆の者、露と競って萩の遊びをしよう」といったところでしょうか。「萩の遊び」は萩を愛でて楽しむことで、ここでは萩を眺めながらの宴のことでしょう。

この歌を初めて目にしたとき、何か楽しい謎かけをされたような気がしました。一体、白露と何を「競ふ」というのでしょうか?この疑問を解くために、露と萩と一緒に詠み込まれた万葉集中の他の歌を調べてみました。すると、当時「露」が、その儚さと美しさを愛でられただけでなく、興味深い機能を持つと信じられていたらしいのを知りました。それは咲く前の萩に置けば開花を促し、既に咲いた萩に降りれば花を散らす、いってみれば季節のステージをひとつ進める役者だったのです。ですからこの歌は、「白露が萩を散らしてしまう前に、その力と張り合って花の盛りの姿をここにとどめ、味わおう」という歌と捉えることができます。折々、季節の草木の盛んな姿を眺めることによって自然の生命力を身の内に取り込もうとしていた、古人の意気込みのようなものが伝わってきます。

初秋の季語・萩は、赤紫または白色の花を房状につけるマメ科の落葉小低木。昔から愛されていたらしく、万葉集には萩を詠み込んだ歌が142首もあるのだそうです。そうした萩の歌を眺め渡してみると、万葉人にとってこの花が、咲くと反射的に「ああ、あの人と一緒に見たい」と大切な人の顔が想い浮かぶような、その季節の代表的風物だったことが分かります。先に取り上げたツククサと同じく、萩の花も摺り染めの染料として使われました。野原に踏み入った人の衣に知らぬ間に色を付け、また面白いことに、鹿の奥さんに見たてられたりもしていたようです。

特徴的な3出複葉を持つこの植物を私が親しく意識したのは、仕事で少しの間暮らしたことのあつた仙台でのことでした。彼の地には萩があちこちに植えられていて、やや傾きかけた陽の光を浴びて風に揺れているときなどは、きらきらと波打つ水のような風情だったのを良く覚えています。北海道では、そのミヤギノハギも公園などにはあるようですが、花が少し小ぶりのヤマハギの方を良く見かけますね。こちらでも可愛らしくて好きです。どちらも札幌近辺では8月から9月に見られます。(記・深町)

※会員の高野さんが挿絵を描いてくださいました。ありがとうございます。



■ お知らせ

忘年会のお知らせ

と き:2011年12月7・8日(水・木)
と ころ:カールス温泉 ホテル岩井
連絡先:〒059-0553 登別市カールス町27
TEL:0143-84-2281・FAX0143-84-3160
問合せ: info@hofeliwai.com
会 費:10,000円/人(当日会場にて)
札幌出発:12/7(水)13:00(時間厳守)
NHK 札幌放送局前から。
札幌到着:12/8(木)15:00 予定

※出席者は活動申込書にてご連絡下さい
(前日以降のキャンセルは会費全額を徴収します)。
詳細は森ほら事務局までご連絡下さい。



■ 今月の幹事会

出席者：市山・荻田・樫棒・酒井・佐野・高野・釣井・西野(梯)・矢澤・和田

◆ 第二回理事会の報告

9月26日(月)2011年度の理事会を開催しました。理事数12名。出席7名。委任状3名。欠席2名を持って会は成立いたしました。横山理事長出席のもと今年度前半(4月から9月)の活動報告と会計報告が承認されました。来年度から始まる「CGC 鳥柵舞の森」事業と協会10周年記念行事が話題となり理事長からもしっかりと推進するようご指示がありました。

議案審議:

- ①上期活動および会計報告について、計画通りに遂行され、承認されました。
- ②後期活動計画の確認について、修正もなく、計画に基づいて実施して行く事としました。
- ③2012年度「CGC 鳥柵舞の森」新規事業計画提案について、3者協定書に調印され、新年度事業としてスタートする事といたしました。
- ④協会10周年記念事業について、記念事業事務局を中心に事業を実施する事としました。

その他の審議および決定事項

- 1 11月活動スケジュール
- 2 「CGC 鳥柵舞(うさくまい)の森」看板設置の件、
- 3 北海道森林ボランティア協会10周年苗畑プロジェクトの件
- 4 道民の森づくりネットワークの集い2011の検討
- 5 委員会報告 広報委員会・業務委員会・助成委員会・研修・企画委員会(冬期セミナー他)
- 6 北海道大学「都ぞ弥生」百年記念植樹祭支援の件
- 7 第4回ステップ・アップ事業参加対応
- 8 忘年会の件(詳細はP3掲載)

■ 活動履歴

活動日	行事・活動地	参加数	活動内容
9月20日(火)	澄川	14	樹木園整備
9月21日(水)	澄川	14	樹木園整備。LAWSON社員野外体験
9月23日(金)	澄川	2	トイレ作り
9月24日(土)	澄川	3	トイレ・看板
9月26日(月)	澄川/ラルズビル	12/5	遊歩道整備・看板/第二回理事会
9月27日(火)	澄川	3	トイレ・看板
9月28日(水)	アイケン/澄川	10/2	苗畑整備・竹採取/トイレ
9月29日(木)	CGC 鳥柵舞の森	1	現地案内
9月30日(金)	澄川	12	樹木園整備・トイレ・看板
10月3日(月)	澄川	1	看板作成
10月4日(火)	澄川/道民の森	11/3	樹木園整備/ステップ・アップ研修
10月7日(金)	北海道CGCの森	19	植樹記念碑設置
10月8日(土)	道新ぶんぶんの森	11	第6回植樹祭
10月11日(火)	ラルズビル	10	定例幹事会
10月13日(木)	有明	6	笹刈り・倒木処理
10月15日(土)	澄川	8	木道整備
10月16日(日)	道民の森	1	ステップ・アップ研修
10月17日(月)	幌南小学校/アイケン/澄川	2/10/1	校内森林教室/竹支柱採取/苗木整理

※ リンゴ園活動(袋外し・葉もぎ・収穫)(9/16-8人・9/22-4人・9/24-4人・9/27-7人・9/29-7人・10/5-4人・10/6-4人・10/12-5人・10/13-中止・10/14-9人)